



日本選手初の総合優勝 高木美帆選手

2018世界オールラウンドスピードスケート選手権大会

世界選手権で 日本初の快挙達成

3月10日④、11日⑤にオランダ・アムステルダムで開催された「スピードスケート世界選手権大会」で美帆選手が総合優勝する快挙を達成しました。

この大会は、5000m、15000m、30000m、5000mの4種目で総合優勝を決め、短距離から長距離までの強さが必要とされる伝統ある大会です。美帆選手は、初日に行われた5000mで1位、30000mで2位と前半2種目を終えて82・306点で総合首位に立ち、二日目の15000mで1位、5000mで4位と前半から総合首位を守り抜き166・905点で日本選手初の総合優勝を果たし、「クイーン・オブ・スケート」の称号を欧米以外で初めて手にしました。

また、17日⑥、18日⑦にベラルーシ・ミンスクで開催されたワールドカップ第6戦の1500mで優勝し、今季出場した大会全て優勝する快挙を果たしました。この種目別優勝と全種目の合計得点による総合優勝も決め、日本選手初となる快挙を達成しています。

美帆選手が十勝へ凱旋

3月20日⑧、美帆選手は平昌オリンピック後の2つの大会に出場し、今シーズンの全競技日程を終え十勝に凱旋しました。とかち帯広空港では、詰め掛けた約350人から盛大な祝福を受け、町内7団体で構成する「2018平昌オリンピック出場を応援する会実行委員会」の柿崎俊男会長から花束が贈呈されました。

出迎えた飯田町長は、「実家で心身ともにゆっくりリラックスを」と声をかけられていました。また、空港内で記者会見も行われ、感謝の思いや今後について、記者の質問に笑顔で答えていました。



初代女王へ 高木菜那選手

2018平昌オリンピック

日本女子初の同一大会で 複数の金メダル獲得

平昌オリンピックスピードスケートの最終種目で、今大会から新種目として採用された女子マススタートが、2月24日④に競技が行われ、菜那選手が見事「金メダル」を獲得しました。

新種目のマススタートは、400m以上16周で競い、中間スプリントのポイントとして4周、8周、12周でそれぞれ先頭から3位までに5点、3点、1点と、最終16週の順位で先頭から3位までに60点、40点、20点が与えられポイントにより最終順位が決定します。上位になるには、位置取りや駆け引きが重要となる競技です。

1回戦に出場した菜那選手は、序盤後方に控え最初の4周目で一気に前に出て、5点の通過ポイントを奪取して5位で決勝へ進出しました。

決勝では、前半のゆっくりとしたペースの中、後方で控えて体力を温存し、終盤のペースが急激に上がった瞬間、それを待っていたかのように後方から一気に前に出て2番手に位置し、ラスト16周目の最終コーナーでインから抜け出し、熾烈なメダル争いを制し新種目の初代女王として、歴史に名を残す偉業を成し遂げました。

菜那選手は、女子団体追い抜き(チームパシュート)でも金メダルを獲得しており、冬季オリンピックの同一大会で、日本女子の金メダル複数獲得は、全競技を通じて初めてとなる快挙も達成しています。

4年に一度の最高の舞台で個人種目の金メダル獲得は、町民に大きな感動を与えてくれた瞬間でした。

メダル5つを 手にする高木姉妹

◀平昌オリンピックで活躍する菜那選手・美帆選手



とかち帯広空港へ到着した美帆選手